

北朝鮮という活火山はいつ爆発するか？

漢和防務評論 20170705(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

漢和防務評論誌は、中国問題だけでなく、最近では北朝鮮問題に関する記事も多くなっています。

漢和防務評論ネット版最新号が8月26日付で着信しました。

今日の紹介記事は、7月5日号の北朝鮮に関する記事です。

北朝鮮に対する圧力に中国が真剣にならないのは、難民問題があるから、と漢和は述べています。北に対する石油提供は、中国ではなく最近ではロシアが主であると。

平可夫

まず結論から述べる：米国の戦略学者との交流の間に明確になったことがある：米国は、信頼性の高い米国本土を攻撃できる ICBM、核弾頭、化学弾頭の開発を絶対に許さない！と。これが最低ラインであり、もしこの最低ラインを超えれば、米国は疑いなく、北朝鮮に対し総攻撃を実施する、と。

従来から、米国本土の安全は、ワシントンの外交政策の最優先事項であり、そのため一切の代価を惜しまない。特に異教徒、ならず者国家に対しては！その際、難民発生の問題及び同盟国の利益問題に関しては、米国が考慮すること全くない、と。2003年のイラク戦争の教訓を見るとわかる：当初、米国は、NATO内部の結束を促しイラク問題を解決しようと決心した。その結果、フランス、ドイツが反対し、英国だけが追随した。

中東においては、イラクのフセイン政権攻撃に反対したのは米国の親密な同盟国ヨルダンであった。結果はどうであったか？米国はやはり自分の思い通りに行った。しかし結局イラクに化学兵器はなかった。

KDRの予測は次の通り：一旦米国の情報機関及び技術部門が、北朝鮮が信頼性の高い ICBM、核弾頭の開発を完成しそうだと真に認定した場合、米国は必ず攻撃する。あとは手段の問題が残るだけである。ワシントンは、ソウルや東京の立場は考慮しない。この日が本当に到来したならば、カナダは支持する可能性が高いと KDR は考える。図上演習によって KDR が発見したことは、北朝鮮がもし米国ワシントン、ニューヨークに ICBM 核攻撃を発動したならば、そして一旦アラスカに配備された GBI 迎撃システムが迎撃に失敗したならば、ワシントン、ニューヨークに配備された THAAD 高高度迎撃ミサイルが最後の迎撃手段となる。しかも THAAD 本体は、7KM/SEC の速度の ICBM を迎撃する能力はない。しかし人類は、動物的生存本能に基づいて、どうでもよくなる。最後の機会を試してみようと。迎撃に成功しても失敗しても北朝鮮の核弾頭の放射能は必ずカナダのオンタリオ州、トロント地区に影響を与える。もし読者がトロント人で、トロントに財産を保有していたならば、米国の北朝鮮に対する

先制攻撃をどう見るか？これは個人の利益、国家の利益に直結する現実問題である。

したがって結論は極めて明確である：もし金正恩が自らこの点にすら気づいていないならば、北朝鮮という活火山の爆発は時間の問題である。トランプは習近平との会談の前に、なぜシリアに対しトマホークを発射したのか？しかもなぜ自ら習近平にそれを伝えたのか？急ぐ必要があったのか？なぜ国際的調査を待たなかったのか？習近平の答えは次の通り：大量の児童の死亡に対して我々は理解している！と。これは中国の指導者が30年来初めて米国の軍事攻撃に対して”理解”を示した言葉である。

KDR は次のように理解した：習近平の上述の対応は、中国国内で大きな問題になった：トランプを恐れたのか？降伏したのか？と。その他の問題では、**KDR** は習近平に賛成しない。しかしこの回答は極めて融通を利かせた結果である。両者は何を話し合ったのか？

トランプ：北朝鮮問題で、貴方（習）が圧力をかけなければ、私は単独で行動する。”トマホーク”で攻撃する。

習近平：貴方（トランプ）は平壤が自ら禍を引き起こしていると述べたが私も同感だ。我々は米国を理解している！

現在の金正恩政権の内部の安定状況を見る。北朝鮮を分析するために、我々（漢和）は現在平壤内部に独立した情報チャンネルの構築を試みている。

金正恩の核計画に関して、今年1乃至3月、北朝鮮は弾道ミサイルを22回以上打ち上げただけでなく、核実験を1回行った。なぜか？**KDR** は次のように判断する：金正恩は、明らかに最短期間でICBM、MRBM、核弾頭の全ての実験を完成させ、実用化に漕ぎつけようとしている。第一段階は依然として中距離弾道ミサイルの信頼性の確保である。**KDR** は10%以下と評価している。

三世代に渡る金王朝の外交の特徴に照らせば、一旦上述の目的を達成すれば、速やかに”アメとムチ”の時代に転入し、対話外交が開始されるであろう。

金正恩は、非理性的なのか？無知で幼稚なのか？それは彼をよく見ていない！からだ。

KDR は、彼を極めて聡明であると評価している。

中国の北朝鮮問題専門家は、逆に**KDR** に聞いてきた：外部世界の理解に照らせば、金王朝は非理性的であるが、なぜ70年もの間、大国とわたりあえたのか？**THAAD** 問題を見ると、北京はこの三世に外交を牛耳られている。一世、二世時代の外交とどこが違うのか？幼稚なのは北京であり、平壤ではない。

粛清に関して

確かに、金正恩は、就任以来、1000名近い高級官員を粛清した。なぜそうしたのか、彼は父親とは異なる。父親は祖父の権威の庇護の下、すでに30年近い政治経験があり、権力の基礎が固められていた。万景台革命学派、三大革命グループが金正日の早期の権力基盤であった。金正恩には未だ権力の基盤がない。恐怖政治によって自己の政治的権威を確立するしかない。

金日正はどの程度の高級幹部を粛清したか？延安派、モスクワ派、抗聯派、国

内甲山派（遊撃隊）、1950年代末期、”甲山派八月宗派”事件だけで粛清人数は1万名以上に達した。読者は自ら判断して欲しい。金正恩の殺人数は多いだろうか？中央集権国家の三世皇帝としては粛清人数は多くはない！日本の大化の時代に類似の歴史がある。しかし金日正は自分の親兄弟は殺さなかった。金英柱は1990年代初期に政権に復帰している。金正日は弟金平一を殺さなかった。長年外国大使に斥けたが。兄を殺した人間には何を期待できるのか？

金正恩は無謀な勇気の持ち主か？このような大規模な軍内の粛清によって、なぜ軍内部でクーデターが起きないのか？信頼できる平壤戦略情報筋によると：国防部長金永春次帥は、引退ののち、彼は軍服を着て一部の祝賀会に出席していた。全ての処遇が依然として継続されたのである。金正恩の帝王術は父親と変わりなかった。必ずしも死地に追いやることはしなかった。ただし張成澤、総参謀長李英浩は”反革命罪”で徹底的に消し去った。実際は、二者の犯した罪は大不敬罪であった！金正恩の権威を無視したのである！大多数の三代に渡る老臣を金正恩は如何にしたら管理できるか？見せしめが必要だった。KDRは以前に報道した：張成澤は態度が不尊で、皇太子正男と関係があった。これは帝王家が極めて嫌う。彼は多くの人の利益を損ねた。特に軍の利益を。彼は軍を手中に収めようとした。”張成澤を殺すことは労働党内部の共通認識であった”！

金正恩は権力の基盤がないために、外部の圧力、米国と韓国の軍事演習に直面すると強い不安感が恐怖政治への傾斜を強めた。これは恐るべき一面である。短期的には北朝鮮のやり方に符号するが、長期的に見ると危険である。

このほか北朝鮮社会は、社会思想、信念が崩壊している。もはや皇帝の権力を信じない。この点は、金正恩のもうひとつの不安な点である。戦略情報筋はKDRに対し次のように述べた：たとえ平壤の人であっても、忠誠を示す言葉の80%は嘘である。1970年代の一世の時代、忠誠を示す言葉の80%は真実であった。この点は、金正恩が認識している。平壤及び全北朝鮮の多くの人々は韓国ドラマを見ている。また国境を跨いで中国の携帯電話が使える、中国を含めた外部と直接話ができる。北朝鮮政権の情報統制はすでに失敗した。これは専制社会の最大のタブーが破られたのである。したがって北朝鮮の状況は文革時代の中国とは完全に異なる。経済上は、すでに初期の資本主義に移行している。中央アジア、西アジア地区のバザール経済に相当し、大量の私営農貿市場（農副産品貿易市場）が出現し80%以上の社会経済生活を支配している。

社会主義配給経済はすでに完全に崩壊し、農業で行っているのは”莆田作業法”（農地の請負制度、約10乃至15人のグループで請負う）であり、企業内部で行っているのは有限独立採算制度である。北朝鮮の経済、人民生活の改善には一定の補助がある。しかし2017年は食糧問題が依然として解決されていない。工農業改革の共通点は：おおむね企業、作業団体、個人は利潤の50%を受け取ることができる。50%は国家に上納する。この比率は地区によって異なる。北朝鮮は、本当に国際的に孤立しているか？

人民の生活がやや改善していると言われる証拠は何か？平壤市内で絶え間なく続く小型乗用車の流れがそれを物語っている。レストランは満員の時がある。頻繁に行われる核実験、弾道ミサイル発射に必要な資金はどこから来るのか？

石油は何処から来るのか？中国の経済制裁は効いているのか？

ロシアは、北朝鮮の外交、政治、経済の空間をひそかに占領しつつある。大量の石油は、中国からでなく、ロシアから入ってきている。北朝鮮の経済開発区において、ロシアは49年間の岸壁の租借権を取得した。金正恩は中国が好きなのか、ロシアが好きなのか？この点はすでに明白になっている。このほか北朝鮮はアジアへの労働者輸出大国である。労働者をシベリア、マレーシアで働かせ、外貨、石油等を獲得している。

利口なロシアと愚鈍な中国は、対北朝鮮政策で大きな差がついている。結論は次の通り：北朝鮮という活火山を爆発させないためには、ただ一つ条件がある：北朝鮮のICBM開発を停止させることである。その他は米国は関わる必要がない。もしこの最低ラインを超えたら、朝鮮半島の情勢を誰も抑制することができない。

KDRは、北朝鮮情勢の動揺を考慮し、再度モスクワ、北京、ソウルに建議したい。トランプの対メキシコ政策に倣い、すべての国境線に堅固な難民侵入防止施設の構築を。一旦難民を制止することができれば、今後の対北朝鮮政策は活発敏速になる。施設工事は巨大であるがその価値はある。

以上